

公式見解

教団の朝日新聞等への 日本学術会議に関する政治的意見広告に対する公式見解



「日の丸か赤旗か」谷口雅春先生は、共産党は天皇国日本を破壊する集団であるとして、その危険性を終始訴え続けてこられた。

**谷口雅春先生の救国の教えを裏切り、
日本共産党の大衆扇動組織と化した
現教団を徹底批判する！**

昭和三十年代、わが国は、日米安保条約改定の問題で共産革命前夜の状態となりました。

この時、尊師谷口雅春先生は、救国運動の先頭に立たれ、「日の丸か、赤旗か」と獅子吼され、全国百万の生長の家信徒は日の丸掲揚運動等の国民運動の中核となり、祖国の危機が救われました。

今秋、日本学術会議の会員候補者の一部が任命権者の菅義偉内閣総理大臣から任命されなかった問題が話題となりましたが、『産経新聞』の「産経抄」、「正論」、「月刊Hanada」、「WILL」等において、多くの識者により、日本学術会議には日本共産党から多数のメンバーが送り込まれ、反国家的活動の牙城となっていた実態が暴露されています。

ところが、谷口雅宣総裁の現教団は、令和二年十月二十五日の朝日新聞に、日本共産党の主張と全く同じ主張の意見広告を掲載しました。その後、他の新聞にも掲載す

るとともに、『サンデー毎日』十一月二十九日号のインタビュでも谷口雅宣総裁が同様の主張をしています。さらには、現教団は、全国の地方講師・光明実践委員（青年を指導する講師）に対してこの政治宣伝の内容を研修するような通達により命じています。

このことは、日本共産党のフロント団体（大衆扇動組織）と化して露骨な反国家的政治宣伝（プロパガンダ）活動を、信徒の多大な浄財を浪費して実施していると、心ある信徒から論評されるに至っています。

生長の家社会事業団は、尊師谷口雅春先生から聖典『生命の真相』と聖経『甘露の法雨』等の著作権を託され、正統な教義の永遠の護持という聖なる使命を与えられた真実の「生長の家」



日本学術会議には共産党から多数のメンバーが送り込まれ、反国家的活動の牙城となっている旨を報ずる各誌。



谷口雅宣総裁のインタビューが掲載された『サンデー毎日』



<日本学術会議>その実態は共産党に牛耳られた、極めて政治的な組織である。

第三に、宗教法人が、信徒に対して、反国家的政治宣伝を洗脳し強要することは、信徒の基本的な権利（信教の自由・思想信条の自由・参政権）の重大な侵害となります。

現教団の指導者と執行部は、自らの深刻なあやまちを猛省し、即時撤回して、全信徒に謝罪することを公式に要求します。

令和二年十二月七日
公益財団法人生長の家社会事業団

5

連載

教団の「日本学術会議に関する声明」に反論する

共産党と見紛うばかり——教団のあきれた意見広告

谷口雅春先生は

泣いておられる

さる十月二十五日、宗教学人生長の家（以下、教団と略）は朝日新聞に（十月二十九日付産経新聞にも）特大の意見広告を発表した。日本学術会議の推薦した新規会員の内六名の任命を菅首相が拒否したことを、「真理探究への政治の介入」だとして反対する声明である。

教団は大きな誤解をしている。日本学術会議を「真理探究」を任とする中立公正な組織と決めてかかっているが、その実態は共産党に牛耳られた、極めて政治的な組織である。

そのことは、日本学術会議の元副会長・唐木英明東京大学名誉教授が、次のように証言していることからも

監修 勝岡寛次（かつおかかんじ）
文責 谷口雅春先生記念図書館資料館
「憲法調査室」



唐木英明氏

明らかだ。「会員の基本的マインドは「左寄り」で「唯我独尊」。組織力のある政治勢力が次々と関係会員を送り込んだためだ。当然、政府からの諮問は減った。現在も、特定の政治勢力の影響が完全に切れたわけではない。」（十一月二日付『夕刊フジ』）

「組織力のある政治勢力」とは、日本共産党のことである。今回、この問題を最初にスクープしたのは新聞『赤旗』であることから、そのことは知られよう。つまり、共産党は長年にわたり、日本学術会議に「次々と関係会員を送り込む」こと

によって、同会議を事実上支配してきたのである。多くの会員が「左寄り」で「唯我独尊」なのは、そのためである。

従って、菅首相の決断は、「真理探究への政治の介入」などではない。共産党に長年牛耳られてきた日本学術会議の「関係会員」の任命を、法律上の正当な任命権者である菅首相が拒否し、この政治的に偏向した組織を、公正中立な学術組織に再編するために不可欠な、正しい政治判断なのである。

教団と谷口雅春総裁は、近年急速にその主張を「左傾化」させ、初代総裁谷口雅春先生のみ教えに背くような言動ばかりしているが、ここに至って共産党と完全に軌を一にし、「真理探究への政治の介入」に反対するに至ったのは、真に笑止かつ破廉恥な行動という他はない。果ては新聞『赤旗』もこれを取り上げ、志位和夫委員長からも「お褒めの言葉」に預かるような有様で（十月二十八日付）、情けないことこの上ない。

尖閣が今にも中国に取られそうになっている正にこの時に、日本学術会議は一方では軍事研究絶対反対を呼号しつつ、他方で中国とは相提携して軍事研究に協力しつつある。

一生涯、反共の立場を貫かれた谷口雅春先生は、きっと泣いておられるに違いない。

2020年(令和2年)10月25日(日) 第1頁 10/26

意見広告

真理探究への政治の介入に反対する
日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する声明

読みの中では、例が「覆れている」かを門外漢が決めてはならないし、ましてや時の為政者の判断によって、研究費の削減や削減にしようとする行為が許されるべきではない。生長の家は宗教ですが、真理を追求し、真理を現実社会にもたらすことで、人類と地球社会を「より善なる方向」へ近づけるという目的では、科学と変わらぬと見なす。かつての宗教が未分化の時代には、科学者が崇拝した真実が、宗教の教義と矛盾するという理由で、「宗教的」によって真理が隠されたという言い訳を人々は共有しています。21世紀の今日でも、一部の国では、科学的真理を認めない政治家によって国政が定められ、多くの国民が犠牲となるという残念な事例が頻りに見られます。また、科学的真理を認めない宗教があることも事実です。しかし、その中にもあっても、20世紀に多くの

現代の議会制民主主義下の内閣制国家には、公序良俗を侵害しない限りは、宗教や学問の自由を保障する自由が認められています。従って、科学的真理の探究を尊重するということはありません。従って生長の家は、真理探究への為政者の介入に断乎反対します。

宗教学長の家
https://www.jp.seicho-no-ke.org/

(上) 共産党と全く同じ主張の意見広告を掲載した生長の家教団（朝日新聞 10月25日付）
(左) その結果教団は、産経新聞紙上で名指しで批判を受けることとなった（10月26日付）

勝岡寛次
昭和32年広島県生まれ。東京都在住。早稲田大学第一文学部卒、同大学院博士課程単位修得。現在、明星大学戦後教育史研究センター勤務。公益財団法人新教育者連盟理事。公益財団法人生長の家社会事業団理事。

【主な著書】『抹殺された大東亜戦争』『明治の御代』『昭和天皇の祈りと大東亜戦争』『天皇と国民の絆』（明成社）、『日本近現代史の真実—50の質問に答える』（展転社、他多数）